



遠宮で結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN

平成 19 年 (2007)

平成19年 新春号 (77号)

<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>

主な目次

生命の尊さに感謝を……………	2頁
杜の話題……………	3頁
春に向けて……………	7頁
どんぐり通信……………	8頁
初宮詣芳名……………	9頁



小笠原流の除魔神事「墓目の儀並びに大的式」(一月二日)

平成十九年丁亥歳の新春に当たり

謹んでご皇室を中心とする国家の隆昌と 氏子・崇敬者の皆様のご清福を熟禱申し上げます

ご社頭の大宮桜(冬桜)が例年になく美しく咲き競っている中に新春が明けました。

昨年は何をしておいても悠仁親王さまがご誕生になられた事は、ご皇室に四十一年振りと言うご慶事でこれに勝る慶びはございませんでした。

年の始めに当たり、ご皇室の弥栄と親王殿下のご生誕を心からお慶びを申し上げるとともに、無事に健やかにご成長されることをお祈り申し上げ次第でございます。

お蔭様で当宮に於きましては昨年年度はご神恩を戴きつ、ご敬神の念の篤い氏子・崇敬者の皆様のご理解あるご協力とご支援のもと、年間の諸祭儀並びに諸行事を滞りなく順調に進捗させて頂くことが出来ました事を、誠に有難く感謝致しております。

なかでも懸案でありました敬神婦人会(りんどう会)が結成されました事はお目出度く今後、女性の立場での活動が大いに期待されているところでございます。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

さて明るいご慶事の反面、子どもはいじめ問題や自殺が連日の如く報じられる中で、年明けでもありま

した。国会でも教育基本法の改正案が衆議院を通過し、いま参議院で審議中ですが、青少年に対する問題意識がいよいよ高まり、政府の教育再生会議で色々と議論されています。事勿れ主義の実態隠しの休眠状態の様な教育委員会が白日のもとに曝け出され、いよいよよ学校や地域社会や各家庭が心して連携し本格的に取り組みねばならない緊急事態となり、その試案が纏められ、「いじめ問題への緊急提言」として発表されました。

はたして、学校内のいじめ問題の根源は子供達にあるのでしょうか。その前に私共の大人社会が悪いお手本を示しているのではないのでしょうか。

例えばテレビの国会中継を観ている、はしたなく陰湿的な、相手を只攻撃しているだけの姿や国政に直接関係する等言論を連発する様な質問の姿でも、何ら国益が伴っていないしらじらしさ。相つて企業の不祥事で深々と頭を下げているトップの姿など、謂ゆるいじめの構図の原点の様な場面を数多くみている内に、知らず知らずのう



悠仁親王

ち心に浸透して、いつの間にかいじめが当たり前の様な錯覚に陥った社会構造が出来上がってしまったのではないのでしょうか。悪い見本が子供達に反映されております。私共一人一人が責任を以って子供達との実践に心掛ける時期が到来しているのです。

いのち 生命の尊さに感謝を 宮司 鎌田紀彦

年末新幹線の車中で「ウエッジ十二月号」をみておりますと、「科学万能主義が人間を劣化させている」と云うタイトルが目にとまりました。生命科学者で筑波大学名誉教授の村上先生のことばです。

『生命や心など目に見えないものの価値がおろそかになってきている。遺伝子の研究を通じ三八億年間つなげてきた生命の神秘と、生命を作り出した「人間を超える力」(サムシンググレート)の存在を感じて来た。それを感じることで、自分が生きていくことの有難さがわかる。その謙虚さが精いっぱい生きる力を生む。科学によつて理解できる知識がすべてだとする生き方が、人間を劣化させている。このままでは、社会は荒み、危うくなるばかりだ』と警鐘を鳴らされているのです。

さらに産経新聞の正論紙上でも、『ピトの身体には宇宙の進化の歴史が凝縮されている。どんな未熟な人も全宇宙を背負って生きている。命は自分だけのものではない。そういう意味で命は尊い。自分の命も、他人の命も、壊すのは簡単だが、一度壊したら二度とつけない。命を粗末にすることは、大自然が三七億年かけて作り上げてきた最高傑作を無駄にすることになる。この世に生まれてきたこと自体、途方もない奇跡的な出来事なのだ。生きているだけでも有り難く、素晴らしいことだから、自殺も他殺も絶対にしてはいけない。この世に生かされていることに感謝しよう』

と述べられ、さらに『私たちは生まれてきたことを喜び、生かされていることに感謝すれば、多くの眠っている良い遺伝子の働きがオンになる。あきらめず、努力し続けられ、必ずあなたの遺伝子は目覚め限りない可能性を引き出せると思つて』と結んでおられます。とても解りやすい文章で載りましたので、そのまゝ転載させて頂きました。科学者のことばには説得力があります。

今、無宗教であることが知識人の最高のステータスであるようですが、何ら心の拠り処には成り得ないのではないかと思います。

謂ゆるサムシンググレート(偉大な存在)を認め信ずるか、否かが信仰のある人と信仰を持たない人の違いではないでしょうか。かつて子供の頃からお天道さま、目に見えぬ神々やご先祖様がみて居られるから嘘はつくな、恥しいみつともない事はするなと、たえず親から厳しく云われ乍ら育てられ、自然と社会生活のベースである善悪の判断基準が教えられ、倫理感や公共心、連帯感が自然と培われてきた様に思います。神々やご先祖様と無縁の生活では心のゆとりも安らぎも得る事は出来ません。

朝夕に神仏に手を合せ、神仏に守られ、生かされていることを常に実感し、命の尊さを知り感謝するべきなのです。家庭の再生は、家を齊え治めることであり、家族俱々家のまつりをしっかりと行つていきますと、自然と明るく楽しいプラス指向の生活が築かれるものと確信しています。又、この様なご家庭にこそ、必ず神々のご加護と祝福があるのです。

本年もご神威輝やく大宮八幡宮の新春のご社頭にお詣り戴き、神々のご神縁を更に深く結んで頂き、幸せ多き年でありますよう祈念致し年頭の挨拶と致します。



元旦午前零時、初太鼓



ご社頭の大宮桜(冬桜)

杜の話題

悠仁親王殿下ご誕生

秋篠宮家には九月六日朝、全国民待望の親王さまがご誕生になり、御名は悠仁と命名されました。当宮ではご誕生に先立つ九月一日、朔旦祭にあわせ秋篠宮妃殿下御安産祈願祭を齋行、また以降出産当日まで毎朝日供祭において安産祈願を奉仕。



ご生誕後は十五日例大祭にあわせ悠仁親王殿下御誕生奉告祭を齋行、親王さまのお健やかなるご成長をご祈念申し上げます。



大宮八幡祭り(秋の大祭)

平成十八年秋の大祭・大宮八幡祭りが去る九月十四日より十八日の間行われ、十五日は例大祭、十七日には氏子奉幣祭(奉祝当日祭)を齋行、十七日夕刻には第二十二回の神輿合同宮入りが行われ、社頭が賑わいました。



第 2 1 回 神輿合同宮入

献幣使祭詞を奏上(例大祭)



例大祭並悠仁親王殿下御誕生奉告祭は神社本庁献幣使平岩昌利東京都神社庁長(代々木八幡宮宮司)のご参向を得て十五日午前十時より齋行。次いで十七日の氏子奉幣祭ではまづ氏子四地区より寄せられた赤誠の籠もる氏子幣が副奉幣使五本木徳治責任役員によつて大前にお供えされ、奉幣使田木千城夫責任役員が氏子祈願詞を奏上、氏子各位の安泰と郷土の発展を祈願しました。同日夕刻六時よりは第二十二回神輿合同宮入り。今年も方南西地区も加わり、氏子四地区八基の神輿が宮入、生憎の降雨にも拘わらず神域は熱気と興奮のつぼと化しました。

この他十六日には大宮幼稚園児による民謡踊りや方南エイサー隊むるち組の小中学生らによるエイサー踊り、立正佼成会杉並教会による杉並太鼓の奉納、また十七日には小笠原流弓道の三三九手挟式が行われ、初めの木馬による「騎射の形」を奉納、また裏千家の野点なども催されました。また十八日午前には後朝祭に併せ直会の儀を齋行、十四日入齋の儀により始まった物忌みの解齋を致しました。

第八回 菊被綿飾り

大宮八幡祭りに合わせ九月九日より十八日の間、重陽の節句の行事、第八回菊被綿飾りが清涼殿ロビーで再現公開されました。

この行事は平安時代以降、宮中を中心に九月九日の重陽の節句の行事として広く行われたもの。前日より菊花を真綿で覆い、九日、朝露で菊香の移った真綿を顔にあて不老長寿も願ったといひます。

期間中、清涼殿ロビーには赤、白、黄の被綿二百鉢が展示されました。



小笠原流弓馬術「騎射の形」初奉納



氏子幣・奉幣使参進(氏子奉幣祭)

敬神婦人会結成

当宮敬神婦人会(りんどう会)がこのほど発足、去る九月一日には来賓の久邇正子全国敬神婦人連合会会長、平岩昌利東京都神社庁長ほか九十余名のご参列を得て結成奉告祭・結成式が執り行われました。



結成式ではまづ、平成十五年の当宮御鎮座九四〇年に結成の聲が、あがり、十八年四月の姉妹友好神社・竹駒神社の敬神婦人講の当宮への参拝

りんどう会役員名簿

- 会長 鎌田 民枝
- 副会長 高橋 芳子(方南北)
- 同 五本木 秀子(大宮)
- 同 堀友 美延(方南南)
- 同 小松 茂登子(大宮)
- 常任理事 真垣 明美(方南北)
- 同 山本 すみえ(大宮)
- 監事 同 細野 弘子(方南北)
- 同 中川 千代子(方南南)
- 同 森川 カツノ(和田)
- 同 菅又 春子
- 事務局長 提箸 照之(権補宜)



に合わせ第一回準備委員会を開催、氏子四地区選出の委員により五回に亘る会合が重ねられ会員勧誘などを推進、既

に三百三十余名の入会があることなど経過を報告。議事では「敬神崇祖の念の次世代への普及継承」などを諸事業とする会則を承認、鎌田民枝会長ほか新役員が選出されました。

鎌田会長は「女性の立場で神徳宣揚に努め、祖先より受け継ぐ郷土の伝統文化の氏神信仰を後世の守り伝えたい」と決意を表明。

続いて祝賀会では山田杉並区長も駆けつけて頂き激励のご挨拶を頂いた後、女優の岸ユキさんの発声で乾杯が行われ、和やかな懇親に移りました。

敬神婦人大会岡山大会参加

りんどう会結成後の初めての事業として去る九月岡山で開催された全国大会に当会執行部が参加しました。

全国敬神婦人連合会(久邇正

子会長)の第五十七回全国敬神婦人大会岡山大会は池田厚子神宮祭主様を来賓としてお迎えし、去る九月二十七日岡山市内のホテルで開催。当宮婦人会より鎌田会長、高橋、堀友両副会長、提箸事務局長が出席しました。



敬神婦人会(りんどう会)入会のご案内

当敬神婦人は氏神様への女性ならではの奉仕を通じて地域社会の発展にいささかなりとも寄与したいと、氏子各地区の方々によって結成されました。

神社の祭典行事への積極参加を始めたとする諸活動が行われます。奮ってのご入会をご案内申し上げます。

年会費 一口五百円

謹賀新年

平成十九年元旦

大宮八幡宮

代表役員 宮司 鎌田 紀彦

責任役員 高橋 住雄

梅田 清夫

藤枝 宏友

黒澤 浩一

松島 四郎

毛塚 克彦

細井 嘉次

古谷 孝治

関澤 兼司

五本木 徳治

請井 勝雄

関 又治

五本木 正治

毛塚 克彦

青木 龍雄

根岸 辰行

三枝 栄治

田木 千城夫

黒澤 浩一

大塚 喜一

三枝 治太郎

方南北地区

高橋 住雄

細野 嘉次

岩田 文善

岩崎 太良

鈴木 憲章

生形 勝巳

梅田 清夫

齊藤 康夫

笠原 紀一

玉村 恭男

飯高 朝資

浅川 静男

藤枝 孝治

森川 純一

松ノ木地区

瀬沼 芳蔵

松島 一男

松島 四郎

瀬沼 春男

高野 寿夫

関澤 兼司

松島 武治

莊村清志氏の奉納演奏 第六回 十五夜の神遊び 月の音コンサート

当宮恒例の「十五夜の神遊び」が去る十月七日夕齋行され、世界的なギター奏者の奉納演奏もあって、仲秋の名月のもと境内は参拝者で賑わいました。

神遊びとは神慰め、神祭りのこと。十五夜の神遊びは平成十三年以来行われているもので今年で六回目。当日午後六時、境内ではまづ献灯神事が行われ、参列者によって二千基の竹灯籠の浮き蠟燭に火が点されました。仲秋祭奉仕後、神楽殿では雅楽・神楽舞の奉奏、そして杉並区文化協会の後援による月の音コンサートが催されました。

今年日本ギター界の第一人者 莊村清志さんがソロ演奏を奉納、月明かりに爪弾く名曲の数々、透き通った究極の音色は境内二千人の陪観者を月と音、そして神々と一体の世界へと誘いました。コンサート終了後、清涼殿では



「月見の宴」が催され、ご参加の皆様はこの日に因んだ新作料理「月見御膳」に舌鼓を打っておられました。

尚、明十九年度の第七回「十五夜の神遊び・月の音コンサート」は、九月二十四日(休)に予定されております。

杉並宗教者 世界平和の祈りとつどい

杉並区内の各宗教が一堂に会した「世界平和の祈りとつどい」が去る八月三日、立正佼成会杉並教会で開催されました。この集いは杉並宗教者懇話会(世話人代表・当宮宮司)が八月末の世界宗教者平和会議京都大会に合わせ区内で初めて催されたもの。

杉並教会婦人部による献灯献花に続き各宗教の祈りが奉仕され、まず神社神道の祈りを当宮ほかにより齋行。祝詞奏上のおと、浦安舞が奉奏されました。ついでキリスト教(救世軍)、仏教(日蓮宗)、イスラム(日本ムスリム協会)、天理教、立正佼成会の順により世界平和への祈りが各々行われました。



都八幡会が吉岐対馬研修

当宮で事務局を受け持つ東京都八幡会(会長・平岩昌利代々木八

幡宮宮司)の研修旅行「八幡信仰を追って」が十月十八日より二十日に吉岐・対馬方面で実施され、当宮よりも宮司他が参加しました。

今度の研修には十八名が参加。初日は対馬の海神社、住吉神社参拝後同島に宿泊、翌日は厳原港より吉岐に渡り天手力男神社を参拝、最終日は吉岐島内の神社参拝を行いました。うご兵主神社の例祭に当たり、吉岐神楽の陪観が出来るなど貴重な体験をし、無事帰着しました。



海神神社を参拝

新年度神符奉戴式を厳修

平成十九年度の新春を迎えるにあたり、氏子・崇敬者や全国の立正佼成会会員の方々にお頒かちするご神札の奉戴式が十一月六日齋行されました。

神符奉戴式では、御神前に於いて大宮大麻・大宮三宝



荒神などの神札に御神霊をお遷しし、また神宮大麻と併せて頒布始めの旨を大神様に奉告後、氏子崇敬者を代表し高橋責任役員及び神札頒布責任者の森川カツノ氏と小松延江氏にご神札が授与されました。

第二十八回 杉並大宮菊花展

第二十八回杉並大宮菊花展が十月二十五日より十一月二十六日の一カ月間、当宮特設展示場で開催されました。

この菊花展は杉並区の後援、京王電鉄(株)、サミット(株)の協賛を頂き杉並大宮菊の会主催により毎年催されています。

今年も盆養菊、盆栽菊、懸崖(けんが)、七五三の文字菊や小菊盆景も多数出品され、会員の皆さんが丹精込めて育てた二百鉢の菊花が爽々のもと妍を競っていました。

また、十一月七日の審査会で宮司賞以下各賞の受賞



が決まり、十二月一日表彰式が執り行われました。

宮司賞 井上良介氏

杉並区長賞 五本木秀子氏

会長賞 中村幸之輔氏

審査委員長賞 五本木徳治氏

みどりの会会長賞 倉本晴雄氏

京王電鉄賞 瀧澤政次氏

サミット賞 本橋利夫氏

〃 井上良介氏

日本国香会賞 本橋利夫氏

末柄賞 植島清利氏

藤枝賞 倉本栄子氏

八幡前通商栄会賞 渡辺忠雄氏

金賞 七名

新人賞 二名

協力賞 十六名

秋の豊かな実りに感謝

新 嘗 祭

勤労感謝の日の十一月二十三日午前十時より新嘗祭が斎行されました。この祭典は、五穀豊穡を祈る春の祈年祭と二対をなし、大神様に秋の実りの新穀をお供えし感謝するお祭り。

伊勢の神宮の御園で誕生した神稲「イセヒカリ」の早苗を埼玉県熊谷市在住の吉野森男氏より奉納頂き、当宮幼稚園の稲田で園児達が丹誠込めてお田植えをして育て収穫された稲穂をはじめ、篤志家やボーイ・ガールスカウト、氏子、崇敬者よりの新米や御酒・赤酒、

野菜・果物など数多くのお供えものをご神前に献納されました。また、豊穣に感謝すると共に、事業の繁栄にも感謝して当宮崇敬の企業、又りんどろ会会員等百名を超える多数のご参列を頂き、盛大に祭典が斎行されました。

神社庁六〇周年で受賞

東京都神社庁設立六〇周年記念の東京都神社関係者大会が十月二十六日、明治神宮会館で催され、高橋住雄責任役員（方南北地区）が表彰されました。高橋役員は敬神の念厚く多年に亘り神社の維持経営に尽瘁し斯道興隆のため貢献せられた功績大として表彰されました。

また鎌田宮司が勤続四十年以上、岡田権禰宜が三十年以上の神明奉仕者として表彰を受けました。



寒川神社兼務社

八幡大神研修旅行一行参拝

相模國一之宮寒川神社の兼務社である八幡大神（多田一馬宮司）の責任役員・総代ら三十二名が去る十一月二十五日、研修旅行として来宮されました。

正式参拝の後、宮司の歓迎挨拶と説明を受け、菊花展等境内を散策して清涼殿で休憩。次の都庁へと向かわれました。



山形県知事齋藤弘氏もご来駕 第十六回 杉並花笠まつり

第十六回目を迎えた地元の初冬の風物詩「杉並花笠祭り」（主催・サミット（株）、（株）サミット・コルモ、大宮八幡宮）が十二月九日（土）に開催されました。

当日、午前十時より御社殿において「第十六回大宮八幡宮杉並花笠祭奉納奉告祭」を斎行の後、メインステージにて山形県知事齋藤弘氏・杉並区長山田宏氏・JA全農山形会長遠藤芳雄氏等による御神酒の鏡開きを皮切りに各種の催し物が



次々と執り行われ、特に午前十時と午後一時の二回、西永福商店街から当宮までの花笠踊りのパレードが東京山形県人会花笠踊り愛好会や地元商店会婦人部とサミット役員の皆さまによって奉納されました。また、境内・参道では山形の郷土料理の芋煮や地酒が無料で振る舞われ、山形特産の農産物・特産品などの露店がところ狭しと立ち並び、雨天にも拘わらず一万六千人の参拝者で賑わいました。

どんど焼きに協力をお願いします

近年、問題視されているダイオキシン等の環境保護対策を含め、今後とも伝統行事のお焚き上げ神事を存続させる為にも、お納めの際に全て点検・選別させて頂き、神社関係以外のもの・燃えなないもの・有毒物質の発生の恐れのあるもの（プラスチック製品等）は、その場でお持ち帰り頂いておきますので、予めご諒承の上お持ち込みになりませぬ様ご協力をお願い致します。



- 一、納所では感謝を込めてお納め願います。
- 二、納所は当宮の古神矢・古神札類及び正月飾り（しめ縄等植物性のもの）をお預かり致します。
- 三、人形（ぬいぐるみを除く）類は別途に人形感謝祭を行ってお納め頂いておりますので、祈祷受付へお申し出下さい。
- 四、詳細は社務所へお尋ね下さい。

厄除け祈禱のご案内

厄年に当たる方は、厄除開運の信仰の篤い当八幡宮に於いて、厄除けのお祓いをお受けになり、清々しい一年に致しましょう。

平成十九年 厄年表(数え年)

	前 厄	本 厄	後 厄
男	昭和59年生(24歳)	昭和58年生(25歳)	昭和57年生(26歳)
	昭和42年生(41歳)	昭和41年生(42歳)	昭和40年生(43歳)
性	昭和23年生(60歳)	昭和22年生(61歳)	昭和21年生(62歳)
	前 厄	本 厄	後 厄
女	平成2年生(18歳)	昭和64年生(19歳) 平成元年生(19歳)	昭和63年生(20歳)
	昭和51年生(32歳)	昭和50年生(33歳)	昭和49年生(34歳)
性	昭和47年生(36歳)	昭和46年生(37歳)	昭和45年生(38歳)
	昭和23年生(60歳)	昭和22年生(61歳)	昭和21年生(62歳)

※厄年(やくどし)は、古来人生の節目として特にお気をつけなければならぬとされている年回りのことです。本厄の前年は前厄、後年は後厄に当たります。厄年に限らず、除災招福の厄除祈願を受けることができます。

大宮八幡の杜 春に向けて

新春初詣の人並みも一段落の一月七日早朝、境内斎場で宮司以下祭員奉仕により武蔵野陵遙拝を齎行。

十五日、小正月の古神札焼納祭(どんど焼き)で一年間ご守護戴いた御神札や神矢等感謝を込めてお焚き上げを致します。この日



文化財防火デー消防訓練

初午のぼり奉納募集

毎年二月の初午(本年は二月五日)は、お稲荷さんのご縁日として親しまれています。お稲荷さんへ、ご存知のように商売繁盛・家内安全など、八幡さまと並んで広く親しま



れた信仰のある神様で、当宮でも末社に大宮稲荷が祀られています。本年も大宮稲荷神社の初午祭を賑々しく執り行ないたいと存じますので、左記により商売繁盛・家内安全などを祈願されまして「朱色のぼり」を是非ともご社頭にご奉納賜りますよう、ご案内致します。お願い申し上げます。

一、朱色のぼり 一口三、〇〇〇円(出来れば二口以上でお願い致します)のぼりには、御氏名(又は御会社名)を入れてさせていただきます。

記

毎月・お朔日参りを 致しましょう

毎月最終の土曜日又は日曜日

大宮八幡宮フリーマーケット

平成十九年春の祭典と主な行事
1月1日 神能「翁」
厄除開運大祈禱(一番祈禱)
歳旦祭

1月2日 小笠原流暈目の儀・大的式

1月3日 元始祭

1月7日 武蔵野陵遙拝

1月15日 古神札焼納祭(どんど焼き)

1月25日 初天神「大宮天満宮」

1月26日 文化財防火デー消防訓練

2月3日 節分祭

2月5日 初午祭「大宮稲荷神社」

2月下旬 梅盆栽展

2月11日 紀元祭

3月中旬 木瓜盆栽展

4月3日 畝傍山東北陵遙拝・本宮遙拝

5月3日 春の大祭(尚武祭)

5月5日 春の大祭(尚武祭)

5月19日 大宮八幡宮の杜新能

5月26日 裏千家献茶式

毎月1日 朝旦祭(どなたでも自由に参列出来ます)

毎月15日 月次祭(参列出来ます)

毎月最終の土曜日又は日曜日

東京都神社保育連合会
園長教職員研修会を当宮で

東京都神社保育連合会（会長 川合玄紘）の平成十八年度園長教職員研修会が去る十二月六日午後、当宮清涼殿を会場に開催されました。

同会は都内の神社関係の幼稚園・保育園で組織される団体。

当日は園長会のあと先生方百十名参加のもと、研修会が行われ、平成八年のNHK体操のお兄さんであったミツル&りょうた氏の「音楽と体操の実践―幼稚園・保育園での音楽と体操―」講演を聴き、当宮への正式参拝（当園園児が朝日子舞奉奏）の後、懇親会が開かれました。又、ロビーでは園児のミニ作品展が展示されました。

戌の日には
子育八幡さまで
安産祈願のご祈祷を！

安産腹帯（岩田帯）も授与所にて
お頒けしております。

子授け祈願・初宮詣も随時
お受け致しております。

5月	4月	3月	2月	1月
4日(金)	10日(火)	5日(月)	9日(金)	4日(木)
16日(水)	22日(日)	17日(土)	21日(水)	16日(火)
28日(月)		29日(木)		28日(日)

平成19年戌（いぬ）の日
（1月～5月）



おいも掘り

十月十九日、秋のスキリとした青空が気持ち良かった事を覚えています。この日、子どもたちが前から楽しみにしていたおいも掘りに出かけました。畑に着くと早速、おいも掘りを開始。



土の中からおいもの紫色がチラリと見えると掘り出そうと必死なお友だちもいれば、土から出ているつるの辺りを少しだけ

け手で掘っては、「先生おでもないよ」というお友だちも。けれど頑張っておいもが掘れると、「子どもたちは大喜び。

「先生見てー」という嬉しそうな声が畑に溢れていました。手や顔を泥だらけにしながらいきなり興奮した子どもたち。土を掘っておいもを収穫する楽しさを体験できたのではないかと思います。「秋の実り」や「収穫」に感謝する気持ちを忘れずに育っていつてもらいたいと感じた一日でした。

教諭 西田久美子



緑豊かな都心の杜。
正統派神前式

成人式
卒業式

衣装・美容着付・写真・初宮饗膳（ご会食）など承ります。

清涼殿

03 (3312) 7515

結婚式挙式者芳名（敬称略）

（平成十八年七月一日）

十一月三十一日

- 高橋順一・知子 垣原健・摩耶子
- 富松範幸・絵梨子 富田勉・晴代
- 黒田充則・真純 伊藤光起・路実
- 金原勝彦・幸代 三木匡宏・奈美子

初宮詣芳名

(平成 18 年 7 月 21 日 ~ 平成 18 年 11 月 23 日)

お健やかな成長をお祈りいたします

仲西祐太 田畑裕希 水越深緒 三小田凌天
 内田怜那 三井陽渡 有賀環夏 島津愛叶
 谷合智樹 浅野花央 藤澤陸 浦野葵
 魚谷采央 藤村龍介 青木瞭汰 浦野葵
 加藤康輔 篠原彩希 小嶋優奈 志村翼
 貝田希花 相川慶太 松浦善克 岩崎純也
 野上航生 天野莉帆 篠原嶺王 福田弦太
 田端稜希 小森悠太 佐藤巨 山崎理央
 岩佐理玖 竹添心俐 佐藤充 三木聖梨沙
 四本煌毅 雨宮悠人 尾崎大朔 三木梨央
 岩田恋羽 篠原大智 望月蒼空 小嶋俊輔
 三村祐翔 對馬慧 當間巧望 難波流輝
 山浅壮太郎 香坂樹輝 大竹虹夢 荒川末菜美
 堀本惺子 黒住高良 弓削広太 池田多希
 山形桜輔 内山珀 吉田千夏 高麗紗音
 米谷葵 川原優人 飯塚円 平沢萌佳
 鈴木勇翔 市江優莉愛 川原聖乃 西田悠人
 那須真翔 前田萌花 矢作謙汰 原田誠也
 那須晴翔 久木原隼 星尾愛奈 渡邊生琉
 寺門亨助 山本一葉 片野優弥 吉永葵
 ベンズエラ 石田弦乃介 森瑛希 池田倫
 柚須彩音 島名陽菜 佐々木美優 上條心晴
 箕浦涼乃 高山悠太 岡野叶夢 大日向瑛茉
 高橋由聖 古澤裕亮 洪武みゆき 井上翔
 杉澤拓夢 大原麻直 香田杏 永井安聞
 武市志優 川谷一花 西尾晃樹 小野諒
 早川あみ 中野蓮 澤井彩乃 新地海音
 沼田理央 重野通 澤田理央 渡々木心人
 ドリイマ 伊藤優波 田中陽斗 佐々木心音
 山本颯翔 宮澤夏 建守快 黒川紗良
 中村友護 高橋隆之介 国元かれん 筒井健太
 後藤心菜 木ノ本響 池田倫太郎 秋山真愛
 須藤隆宏 米山日向葵 森川湊 森山彩夏
 藤田稟枕 長谷見俊樹 富永有紀 森山彩夏

實戸心花 伊藤美海 阪口愛実 赤津友美
 宮島一真 松島晃希 吉田遥翔 山下佑彩
 古川夏羽 米谷風汰 田誠人 一戸未歩
 中渡瀬海斗 上林敬都 小菅瑠男 藤田彩
 鈴木勘吉 佐々野廉 和田葵 村上航一
 網屋護 遠藤正隆 竹内智哉 小日向莉菜
 山本美結 山川雄大 阿久津諒 三上陽南太
 佐藤太知 神保昌吾 瀧澤杏 河野辺悠麻
 前原凜夏 森屋空良 清水太一 秦明日海
 武井愛海 山田剛士 上田千夏 守屋咲希
 逸見弘季 山田珠大 田中優彩 布施雅
 金子琴珠 鈴木翔 鈴木里奈 曾田翔
 荒井裕翔 小村武輝 佐山恭大 古田善大
 新妻悠人 新井日菜 竹内若葉 巨海絵心
 大賀裕介 澁谷里沙字 中桐広人 高橋美乃里
 須貝彩人 渡邊ひな 江隅夢吉 奥田健斗
 篠崎亨介 高原陽佳 清水広喜 村松恵理子
 遠藤明彩 沢田歩花 重田快斗 澤野元
 井上太輝 大島英士 門深晴 澤野慶太
 村上裕暁 森七海 桑山拓也 片岡宙
 坂本賢悟 小林彩花 布施百々姉 渡邊仁美
 佐藤綾香 須藤光 安藤吾一 高部漂
 末松幸樹 田中貴朗 風見弥 小林應介
 野沢充志 飯田玲 古寿田ののか 江島瑠伸
 千葉玲奈 山根莉菜穂 三上虎希 石川結子
 荻野琉希 山根莉菜穂 于美柔 中山楓
 山田詞音 高鹿真帆 堀江末莉南 瀬越美月
 山田倫崇 竹野千咲 堀江末莉南 岩井明日香
 小泉隆之介 江村咲幸 中村祐輔 川西麻由
 榎戸琉伽 矢島直樹 高田遼 横幕悠人
 高柳仁菜 中口翔太 堀越健太 坂本工斗
 小林千咲音 内田翔貴 横山隼 坂本工斗
 木元夏帆 五嶋星来 雨宮優太 大塚翔太
 山田結菜 岸田煌生 中村華 内藤蓮王
 萩原邑奈 徳永来由 坂田菜緒 佐藤快
 久積若奈 梶間星那 坂田望 杉山紗耶音
 齊藤悠奈 川上峻 城戸日向 岡野凌大
 林菜由 鈴木楓乃 中城敦 堀江優太
 中野諒 山田野乃 青木芹夏 堀江優桃
 土田悠真 渡邊開斗 高根沢友 青木そら

藤本竜馬 蛭川瑠奈 小西咲希 近藤梨亜
 加藤史生 木村玲菜 今井那子 山内琴絵
 劉裕里生 佐藤叶菜 鬼山京子 西龍之介
 清水乃愛 武田真真 武田英俊 内藤脩斗
 魚住純也 三浦宙 大庭樹莉 崎西幸輝
 木本悠介 小平龍太郎 井芹勇希 安原美優
 山口誠 蝦澤夏子 久下恭叶 和田姫乃
 吉田稀音 新田愛夏 主浜蒼空 浅賀涼之介
 私市佳乃子 佐多花怜 中山和奏 原田皓介
 西崎悠斗 金子瑞紀 長澤晃平 山本海陽
 小柴斗吾 岡部稜 本橋夏光 田村求真
 中村綾花 平澤都 瀧山深太 栗田奨生
 荻紗弥華 本多晃一朗 堀川悠輝 鈴木美麗
 青木淳弥 鈴木杜菜 石田晃大 横山日和
 蜂屋陽萌 関根もも 大高かれん 高橋莉央
 渡邊萌奈 延原悠斗 村井大起 村山季咲
 土屋桂徳 白山央人 大星優輝 佐藤遙磨
 土屋絢音 鈴木真帆 遠山照人 鈴木智一
 深澤希海 安西初音 渋谷大輝 鷹野葵
 鳥居悠人 藤井祇之介 渡部桃加 冨澤ひかり
 石川蓮 田畑優衣 藤平悠生 西山愛菜
 小川凜香 大草和博 小泉文果 宮原玲奈
 上田夏葵 藤本翼 瀬在賢斗 今村莉緒
 鈴木凜生 本瀬航輝 蛭谷和貴 富田汐
 岩永和花 多賀蒼喜 酒井君子 富田汐
 濱野一葉 川井陽奈 梶田紗杜 村田奈々美
 齋藤友香 中島杏菜 桐生紗枝 渡邊理央奈
 相澤夏帆 岡野彩子 沼田凌士 小川智生
 坂口響輝 須藤悟 青山愛理 丸山晃史
 安美優 小林誠也 島田寿理 遠山凜久
 出山侑書 恩蔵彩聖 富田航正 山岸佑圭
 川口開 持田遼人 内藤拓也 弓納持要
 佐藤勇太 鹿島采人 佐藤秀匠 竹内康騎
 大島夏鈴 高旗優多 鈴木峻也 柳瀬早希
 高橋佑也 富山琴子 大野佑馬 齋藤勇
 土巖吏宗 後藤歩来 内山由菜 大湊日和
 水野皓介 楠野友太 笹井奏那 豊島拓武
 和田千里 飯島光太郎 西田夏帆 山根壯哉
 元木祐花 内田早紀 山口紗葵 宮崎睦子
 浅川芽久 林優惺 宮原甫空 齊藤涼々葉

大内花音 横室拓海 岩村一志 大峽幸之助
 内藤爽子 田中荘介 田村郁通 細田基貴
 深山晴木 佐藤果英 菅原寛太 鈴木楓也
 高橋渚 小池雄真 加藤光咲 駒井南
 中村浩大 浦山美樹 嶋原誠恒 岩田茉莉
 西岡愛夏 木村拓斗 増田翔磨 依田咲子
 佐々木正隆 石堂遥人 藤崎優悟 久保蒼琉
 宮崎宝 小林陸 永井杜明 半田杏梨沙
 清水ひなた 小櫻彩貴 戸田樹希 早田恵都
 土橋陽 杉山佳帆 佐藤大輔 杉本陸
 沓掛桜美 板羽真字 井坂奈楠 林寛敏
 平野佑馬 板東想太郎 福井希美 高橋伶
 堀内聖樹 高橋ひかり 水橋梨央 徳伸そら
 倉持結貴 佐々木淳介 塩田伊織 矢野真梨菜
 安部智則 一之瀬奏 池上侑吾 奥山翔太
 須田彩未 遠藤快青 大川原奏帆 菅原由有
 都ひかり 小川朔 大橋拓実 清水海人
 押山竜一郎 浅賀祐生 加藤綾萌 櫻木健
 石塚朗 三橋悠樹人 藤本紗恵子 下島玲菜
 山下華 井上小玉 鈴木麻央 神尾隆成
 倉成美空 金川桃美 尾崎隆作 岡田紗英
 田島寛成 武田一真 谷川陽花里 白神杏莉
 一町田章太郎 内田周悟 岩本俊信 辻垣藍瑠
 荒川真緒 中後暁 岡田琉夏 伊藤彩菜
 阿部峻士 中後陽 新村光璃 廣澤旺祐
 鈴木理久 本田梁 遠藤裕仁 風間彩花
 野村想 藤本彩歌 森田琉生 黒田晃玖
 大原佳月 坂本海音 小林想 守屋尚吾
 吉田百花 半田康祐 柏木康希 梶谷奏心
 齊藤咲 安藤愛華 土岐優真 青山花
 五十嵐琉飛 清水侑未 近藤翔真 東城逸人
 五十嵐琉珂 糸川菜名 安蒜運音 増田大祐
 山下葵 神内里菜 石井颯真 鎌形青
 長田彩椰 松原優斗 米岡百愛 田原菜山
 大澤瑞希 平川恵 山崎太陽 山本祥瑚
 津津ひなた 金井奎澄 野中崎利彦 石岡航大
 中野晴久 脇本理沙 田中宏典 和嶋直人
 平野優菜 加藤文太郎 稲葉志宏 竹下樹希
 犬塚万尋 林彩夏 竹中悠菜 神部碧里
 麦倉碧 市川清代 中垣惠奈 竹内晴香

平成19年迎春

新年にはご祈祷（ご祈願）をお受けになり、清々しい一年に致しましょう



元旦の開門を前に献灯の神事が



元旦零時、神能「翁」の奉奏



新春厄除開運大祈祷（一番祈祷）・宮司奉仕



元旦午前8時、歳旦祭の齋行



元旦、庭野会長様他立正佼成会幹部ご参拝



2日午前、小笠原流大的式が

大 宮 第 7 7 号
平成十九年 新春号
 平成 19 年 1 月 1 日発行
大宮八幡宮社務所

〒 168-8570
 東京都杉並区大宮 2-3-1
 電話 (3311)0105 FAX(3318)6100
 Mail : info@ohmiya-hachimangu.or.jp

元旦午前零時宮司の打つ初太鼓を合図に開門、平成十九年の年明けです。まず、神能「翁」が奏された後、一番祈祷を奉仕。午前八時に歳旦祭が齋行され、国の隆昌と世界の平和、氏子・崇敬者の平安が祈られます。翌二日小笠原流の除魔神事「臺目の儀」並びに「大的式」、三日には元始祭が。又、十五日には古神札焼納祭（どんど焼き）が古式に則り齋行されますので、二年間の除災招福を祈りご参詣下さい。



15日月次祭に引き続き、古神札焼納祭（どんど焼き）が